

「先生の所属する小学校でサイエンスショーをさせてください」
昨年、私が小学5・6年だった時の担任の先生が3年後に引退すると聞き、いてもたってもいられなくなり、気づけば連絡をしました。快諾をいただき、サイエンスショーを実施しました。



とても緊張しましたが、教員を
目指すきっかけとなるくらいお世

㊦ 恩返し1年



話になった恩師に自分の成長を見てほしいと思いながら実施しました。ショーは大いに盛り上がり、子どもたちの笑顔があふれる中、恩師からは「想像以上だった。今教えている子どもたちに私の教え子はすごいやろ！ って自慢できるわ」と声をかけてもらいました。「いつか恩返しをしたい」と考えていた私にとってこれ以上ないすてきな言葉でした。

恩師からその話を聞いた横浜在住の同級生からも、「PTAとして関わっている我が子の学校でもショーを開催してほしい」と依頼があり、ショーを実施しました。



こういふ話は続くもので、出身
中学校で卒業生として講演をする
ことになりました。さすがに当時の
先生方はいまいませんでしたが、自
分が通っていた中学校の体育館で
後輩たちに向けて話すというの

は、とても感慨深い体験でした。
当時の自分が今の自分を見たらど
う思うだろう、と少しだけ誇らし
い気持ちになりました。
先月は、幼稚園と小学校で講演
会をしました。小学校教員と
して採用された時の同期たちが、
今では幼稚園の園長や小学校の校
長となり、それぞれの園や学校で
講演会を依頼してくれました。校
種の違う園長先生は、採用1年目
研修以来の23年ぶりの再会でした
が、本コラムの読者で「いつか連

笑顔や感動届け、感謝をかたちに

絡したかった」との熱い思いで連
絡していただき開催することがで
きました。
こうした機会を通じて、恩師・
同級生・昔一緒に働いた仲間たち
と再会し、「ありがとう」と言わ
れるたびに、心が温かくなりまし
た。



これまでの人生は、転職の繰り返しだったため、常に新しい展開に必死で、目の前のことをやり遂げることに考えていませんでした。しかし、その取り組んできた

ことが誰かの心に響き、こうして
感謝の言葉を掛けていただけなの
は、とてもありがたいことです。
「一生懸命生きていると必ず誰か
が評価してくれる」。そう確信し
ました。周囲の理解と支えがあつ
てこそ、自己という存在が成り立
つのだと、最近しみじみと実感し
ています。

40代最後となる今年は、自分が
これまでお世話になったり、関わ
った人たちに「恩返し」を
する1年にしたいと考えていま
す。サイエンスショーや講演会を
通じて、笑顔や感動を届けること
で、感謝の気持ちをかたちに
伝えていきたいと思います。